

平成 28 年度 幌別小学校 全体研修計画

実践主題

「確かな学力を育てる授業の創造
～教師の授業力向上を目指して～」



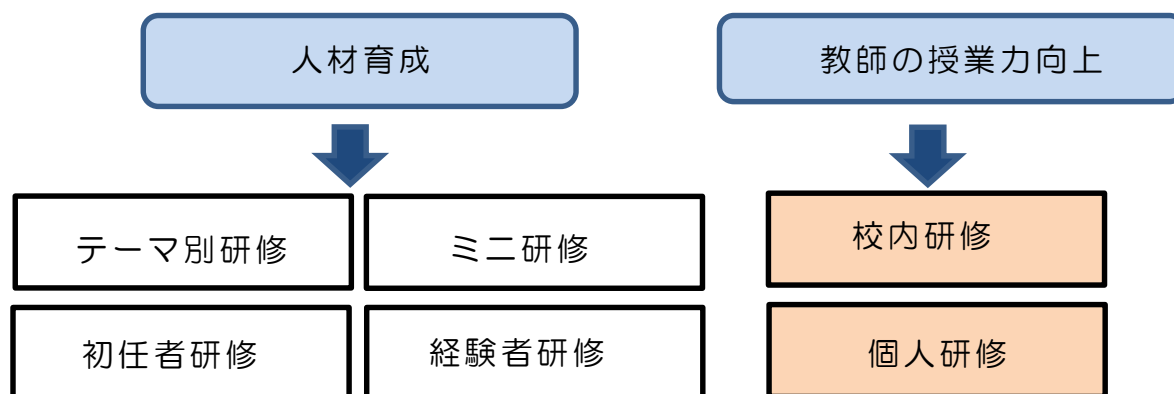
平成 28 年 4 月 14 日

研修部

平成 28 年度 幌別小学校 全体研修計画

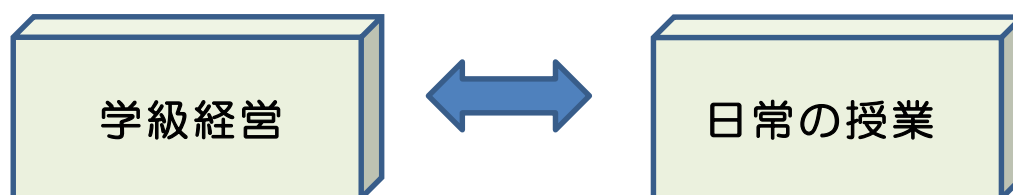
幌別小学校 学校力向上に関する総合実践事業

研修の視点から考えると・・・



毎日5～6時間と、学校生活の大半を占める授業。この授業が子どもたちにとって魅力あるものであれば、子どもたちも楽しく学ぶことができる。この積み重ねが一人一人の学力向上につながり、学級の力も高まっていくことだろう。研修の立場から考えると、教師の授業力を向上させていくことが、幌別小学校の学校力を高めることにつながると考える。

教師は、授業で勝負する！



授業が成立するには、学級の土台がしっかりしていなければならないことは言うまでもない。分かる喜びや学ぶ意義を実感することができない授業は、子どもたちにとっては苦痛である。苦痛な時間が長ければ長いほど、学校生活への意欲の低下や情緒の不安定をもたらし、様々な問題行動を生じさせることもある。

生徒指導の3機能を生かした授業を心掛けていくことで、授業が深まることが多い。また、「分かった！」「楽しかった！」「できた！」と思える授業をしていくことで温かい雰囲気学級になり、子どもたちの関係も良好になっていくことも多い。学級経営と日常の授業は、密接に結びついている。

幌別小学校の研修

1. 実践主題

「確かな学力を育てる授業の創造～教師の授業力向上を目指して～」

2. 実践教科・領域，重点事項

国語科

算数科

道徳

今年度も、国語科、算数科、道徳の2教科1領域を窓口として研修を深めていく。この3つは、優先順位があるわけではない。検証の方法が違うだけである。検証は、授業研究会と教師・児童へのアンケート等で行っていく。

この2教科1領域において重点として取り組みたいことは、主体的・協働的な学びのスタイルである。

主体的

協働的

この二つの言葉を聞くと『アクティブ・ラーニング』と同じであることに気付くだろう。しかし、「自ら進んで学ぶ」や「友達と協力して学ぶ」といった用語や考え方は、すでに何十年も前から使われてきたことである。『アクティブ・ラーニング』を進めることは、決して目新しいことではない。今まで取り組んできた活動をちょっとだけ違う視点から見直してみる、もう少しだけ深く掘り下げてみる等で、何歩も進むことができると考える。この2つの言葉をキーワードとして、授業改善を考えていこう。

① 国語科 ～「読むこと」の領域

今年度の重点事項

主体的に読むための明確な言語活動（主体的に）

- ・ 子どもにとって必要感のある課題，最適な言語活動の設定。
- ・ 「比べて読む」「関連させて読む」など，読みのポイントを整理して取り組む。
- ・ どの段階で，どのように，何で評価するのか，言語活動の評価方法の明確化。

全員参加の伝え合う授業づくり(協働的に)

- ・ 全員が考えを表出できるようにする。共通の土台に乗せる。
- ・ 交流の目的の明確化。
- ・ 考えがもてない子どもへの支援の工夫。
- ・ 交流方法の工夫。



主張ある単元指導計画

- ・ 授業を通して、どのような子どもを育てるのかを明確にもつ。(単元の学習における児童像)
- ・ 単元の主張点をもつ。(授業者の工夫)
- ・ 並行読書の工夫。

② 算数科 ～全ての領域 今年度の重点事項

意欲を引き出す導入の工夫(主体的に)

- ・ 導入場面で意欲を引き出すような仕掛けを組み込む等, 導入方法の工夫。

共有の場としての交流の工夫(協働的に)

- ・ 思考場面における交流の方法, 場等の工夫。

適切な算数的活動の実施(主体的に, 協働的に)

- ・ より適切な算数的活動の選定, 実施。

子どもの実態把握

- ・ 観点に沿った適切なチェック問題による見取り。
- ・ レディネス問題の実施による実態把握。



③ 道徳 今年度の重点

自分のこととして考える導入, 終末の工夫(主体的に)

- ・ 導入：自分の考えをもち、自分から考えていこうとする意欲を高める導入の工夫。
- ・ 終末：自分の考えをさらに明確にしたり、自分の考えの変容を実感できる終末の在り方。

多様な考え方を共有できる交流の工夫（協働的に）

- ・ 交流の方法，場の設定等の工夫。



3. 授業研究会のもち方

国語科



全校研授業。通常学級公開１１本。チームで指導案検討会を行い，研究の視点について全校で検証する。

算数科



チーム研授業。通常学級公開１１本。指導案（簡略化）を作成してチーム内で授業を見合い，研究の視点等について検証する。木曜日に限らず，授業を行ってよい。（事後研が，重ならない方がよい）

道徳



学習研～低・中・高学年部から１学級，授業を提示する。チームで見合い，事後研もチームで行う。
フリー参観授業～学習研を行っていない学年から１学級，授業を提示する。略案のみ。参観も自由。事後研は行わず，感想の提出とする。
＊両方とも，授業をした学年で授業の様子や感想等をまとめたものを研修部報として発信する。

言語，特・支



言語と特別支援学級は，児童の実態に合わせて教科・領域を決定し，公開授業あるいは録画等で公開する。事後研は，チームを基本として行う。

4. 実践組織

チーム低学年	チーム中学年	チーム高学年	チーム特別支援
・下沢・菊地 ・佐々木・葛西 ・成田・三浦	・小枝・大西 ・窪田・山形 ・小野島・木村	・丸石・太田 ・杉田・神野 ・川岸・手塚（隆）	・渡辺・吉田 ・田原・手塚（深） ・草開・相内・田坂

その他

* 音読について

* 学校公開について